

第7回 三重河川流域委員会 議事要旨

日時：平成25年1月17日(木)14:00～16:00

場所：プラザ洞津^{どうしん} 高砂の間

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 題

(1) 三重河川流域委員会の規約改正について

委員変更に伴う規約改正について説明を行い、平成25年1月17日から施行することです承された。

(2) これまでの経緯と予定

三重河川流域委員会のこれまでの経緯と、今後の第8回～9回までの主な議事予定について説明を行い、了承された。

(3) 第6回三重河川流域委員会の議事要旨の確認

第6回三重河川流域委員会議事要旨について報告し、確認された。

(4) 第6回三重河川流域委員会意見に対する説明

第6回三重河川流域委員会で頂いた意見に対して「勢田川における水質改善の取り組みと水質変化について」と「櫛田川における想定浸水被害の算定方法」についての説明を行い、了承された。

(5) 管内の近年の出水状況及び完了事業について

管内の近年の出水状況及び完了事業について報告し、確認された。主な質疑応答については、以下のとおり。

- ・ 内部川の矢矧橋付近(4.2k)で引堤された箇所が河原田水位観測所(2.0k)の上流であるならば、この水位観測所での水位低下は、他の要因によるものではないか？(資料-4 P6)

⇒「整備による水位低下効果」の図で示した1.1mの水位低下は、矢矧橋付近における河道整備前後を比較したシミュレーション結果である。また「河原田水位観測所(内部川)」のグラフで示した河原田水位観測所での水位低下は、水位観測所下流側の河川改修による効果が発現したものと考えられる。

(6) 雲出川の治水対策について

雲出川の治水対策について説明を行い、意見を頂いた。主な意見及び質疑応答については、以下のとおり。

- ・ 整備計画目標流量を、「戦後第一位」として整理しているが、整備しようとする確率規模の考え方を根拠に整理したほうが住民に対しても説明しやすいのではないか。特に、住民からは「戦後最大規模の出水が生じるとに整備目標を変更する」との誤解を招くおそれがあるので表現に留意すること。(資料-5 P14)
 - ⇒整備目標は流域住民へのイメージのしやすさなどを考慮し、戦後最大規模相当の洪水などを目標として表現している場合が多く、確率規模で評価すると概ね1/30~1/50程度となる。整備計画は基本方針に沿って整備を実施するため位置付けるものであり、戦後最大のS57年出水は確率規模で表すと1/35であるため妥当な規模と考えている。地域へ説明する際の表現については工夫したい。
- ・ 遊水地の水の導入部分は洗堰か、それとも調節樋門か。
 - ⇒検討中であるが、基本的には洗堰を考えている。(洗堰=越流堤のこと)
- ・ 治水メニューの検討ケースは、どのような基準で選ぶのか。(資料-5 P15)
 - ⇒現在検討中であるが、コストや環境や地域の合意等の要素を総合的に比較して選定することとなる。
- ・ 計画遊水地となると何が違うのか
 - ⇒計画遊水地に位置付けた場合は、将来にわたり農地への浸水を許容することになるため、何らかの補償が必要と考える。三重県の上野遊水地(木津川)では地役権補償を行っている。
- ・ C案とD案では、河道配分流量は同じであるが、C案とD案とでは何が違うのか。(資料-5 P18,19)
 - ⇒D案では左岸側の計画遊水地での処理量をC案よりも多くとることによって、C案にはある右岸側の農地浸水をD案では設定していない点が異なる。
- ・ 各検討ケースの判断材料として、メリット、デメリット、概算の事業費等を整理してほしい。
 - ⇒検討中であるため、次回の委員会で提示したい。
- ・ 河道内に分布する河畔林をどう取扱うかが課題である。各検討ケースにおける樹木伐採範囲を植生図に重ね合わせた資料を整理できないか。
 - ⇒次回委員会には各検討ケースで関係する植生図も併せて示したい。
- ・ 雲出川流域は大和からの人のルートであり、弥生時代から人の生活があった場所である。三重県や津市教育委員会で整理している埋蔵文化財の分布図を確認して、河道掘削の際に考慮してはどうか
 - ⇒次回委員会までに確認し整理した情報を提示する。
- ・ 河床掘削への対応として、アユの影響に配慮してはどうか。また雲出川漁協への確認が必要ではないか。
 - ⇒現在の検討では、アユの産卵場の保全を考えているので、次回委員会で提示し

たい。

- ・ 農地浸水の場合、堤防の嵩上げ、冠水頻度はどのようになるのか。
⇒計画遊水地では概ね 10 年に 1 回程度、農地浸水許容では段階的に整備を進め、整備目標達成時には概ね 20~30 年に 1 回程度となる。
- ・ 河床掘削が頭首工へ影響を及ぼすかどうかについて提示してほしい。
⇒取水堰への影響はないと考えているが、次回委員会には提示したい。
- ・ 河床掘削が、河床変動にどのような影響を及ぼすのか。
⇒検討中であるため、次回委員会には提示したい。

(7) 宮川の現状と課題について

宮川の現状と課題について説明を行い、意見を頂いた。主な意見及び質疑応答については、以下のとおり。

- ・ 宮川ダムの企業庁の発電は、中部電力に譲渡されると聞いている。濁水調整会議には今後中部電力が入るのか。
⇒三重県より企業譲渡されても運用ルールは今のまま継承される方向と伺っており、現在と同様に濁水調整を行っていくことになると考えている。
- ・ 大規模地震に対する対応として、現状でどこが問題なのか。現在の高潮堤防で対応できるのか（資料-5 P3）
⇒これまでの点検結果では、現況堤防高さが確保できれば対応可能であるが、現在海岸管理者において設計津波高については検討中であり、結果を受け再度見直しを行う。
- ・ 南海トラフ地震については、地震の連動パターンをケース分けして計算し始めているところであり、どの程度の津波になるか等の予測には時間がかかる。今考えられる状況で整備を進め、その間に検討も進むはずなので、結果を受けてからの検討で良いのではないかと。
- ・ 洪水をコントロールするという考え方は入っているようであるが、水以外の自然環境を保全する考え方もあると考えてよいか。整備計画では当然環境や利用について考慮する。雲出川も含め広い範囲を一斉に掘削すると均一化となり、自然環境にとって良くないので、多様な生息地が残るように配慮してほしい。
⇒雲出川では直線的な河道掘削を避ける等の配慮を考えているので、次回委員会で提示したい。
- ・ 宮川だけに限ったことではないが、植物についても外来種に対する対応を検討すべきではないかと。
⇒次回委員会にて提示したい。
- ・ 河道掘削後の裸地に外来の植物が侵入しやすいので、改修の際に外来種を除き在来種に配慮した整備をお願いしたい。外来種の現状把握や在来種の配慮事項検討をする上で河川水辺の国勢調査結果を活用してほしい。
⇒次回委員会にて提示したい。
- ・ オオクチバスやブルーギルは川の中で再生産を行うものではなく、上流のため池等

から流入するものであり、国土交通省が行う河川内の対策だけでは効果は期待できない。外来魚よりも、アユ、アジメドジョウ、スジシマドジョウ、カジカ、アカザやカマキリ等の在来魚に対する配慮を考えてはどうか。(資料-6 P7)

⇒オオクチバスの増加と在来種であるタナゴ類の減少が見られるワンドがあるので、そのような場所において外来魚対策を検討している。

- ・ 雲出川の整備目標の考え方と同様で、目標設定の説明の仕方に留意する。特に、20年間に1/40確率以上の出水が3回も発生している状況で整備計画流量を決める説明だと、そもそもの発生確率の計算が間違っているのではとも指摘されかねないので説明の仕方に留意する必要がある。

⇒次回委員会では、整備目標の設定の考え方について表現を工夫して示したい。

- ・ 「ダム戻し氾濫戻し」は、どのような算定方法で、どれくらいの精度があるものかを示してほしい。

⇒次回委員会には提示したい。

- ・ 河川整備は、治水・利水・環境が一体となるべきものであり、次回委員会では3つの整合を考慮した目標等を提示してほしい。

⇒本日いただいた各委員からの意見をふまえて、次回委員会には提示したい。

(8) 今後の予定

- ・ 今後の開催予定について説明を行い、了承された。

4. 閉会